

池上曾根遺跡Ⅲ

— 指点集落北方の墓域の調査 —



2001. 3

大阪府教育委員会

はしがき

池上曾根遺跡は、わが国を代表する弥生時代の遺跡として知られています。それは、明治36年ころに弥生土器や石器が遺跡内で初めて確認されたことに端を発します。遺跡の全貌が明らかにされたのは、第2阪和国道（国道26号線）の建設に伴って、大規模な発掘調査が行われ、弥生時代中期を中心とする大規模環濠集落が明らかとなり、数々の成果があげられることによります。遺跡の中心部は現在、国指定史跡として保存されております。

平成7年度に実施された史跡整備のための調査では、遺跡中心部において方位にそった高床式の大型掘立柱建物や大型くり抜き井戸などが発見されました。この建物に残された柱の年輪年代測定法による分析の結果、大型掘立柱建物が紀元前52年直後に構築されていたことが明らかになりました。弥生時代の流れを知る上ではっきりした定点が判明したことは、画期的なできごとで、各界の注目を集めました。史跡は活用をはかるため、復元建物がつくられ、公園整備が進められています。

今回の調査は、府道池上下宮線建設に伴う西端の調査で、池上曾根遺跡の北東部にあたります。調査にあたって、地元関係者ならびに関係機関に多大な協力を得ました。ここに記して厚く感謝の意を表し、池上曾根遺跡がこれからも弥生文化の研究に先駆的位置付けを果たすため、本調査とその成果が一助となることを願います。

平成13年3月

大阪府教育委員会
文化財保護課長 小林 栄

例　　言

1. 本書は、大阪府教育委員会が実施した都市計画道路池上下宮線建設に伴う、和泉市池上町所在池上曾根遺跡の発掘調査報告書である。
2. 現地調査は、大阪府土木部交通政策課より依頼を受け、平成11年11月に着手、平成12年3月末に現地調査を終了した。調査の前半部分については、同時期に整理作業を行い、『池上曾根遺跡』Ⅱに詳細を報告した。本報告は、調査の後半部分についての記述である。
3. 現地調査・本書の執筆は、文化財保護課調査第2グループ技師、西川寿勝が担当した。なお、遺物写真撮影は、有限会社阿南写真工房に委託した。
4. 本書に掲載された出土遺物の挿図・図版番号は、巻末の対照表に示した実測番号に対応する。掲載された遺物には実測番号を注記し、保管・活用のために配慮した。
5. 遺構図の基準高は、東京湾平均海水位（T.P.）数値を、方位は座標北を示す。
6. 今回報告の調査区（99-5区）は、以前に本府教育委員会によって報告された調査区（97-6区・99-1～4区）と部分的に重なる。土層名・遺構表記・土器型式などは、前報告書（大阪府埋蔵文化財調査報告1998-1「池上曾根遺跡」1999.3・大阪府埋蔵文化財調査報告1999-8「池上曾根遺跡Ⅱ」2000.3.）に準拠した。ただし、層位・遺構の性格などについては合致しない部分もある。統一できなかったところは本書執筆者の責にある。
7. 発掘調査及び遺物整理・報告書作成に要した経費は、全額大阪府土木部が負担した。

目 次

第1章 これまでの調査成果	1
1. 調査位置	
2. 調査方法	
3. 層序	
第2章 発掘調査	5
1. 歴史時代	
2. 弥生時代	
3. 出土遺物	
第3章 まとめ	15
実測遺物登録対照表	17
抄録	18

挿図・図版目次

図1 池上曾根遺跡地区割表示図	1
図2 周辺調査区位置図	2
図3 地区割図及び標準土層図	3
図4 周辺土層柱状図	4
図5 第2・第3遺構面全体図及び遺構堆積状況図	6
図6 第4・第5遺構面全体図及び自然河川堆積状況図	8
図7 大土坑5-1平面及び断面図	9
図8 周溝状遺構平面図	10
図9 周溝2-2・周溝5-2発見土器実測図	12
図10 大土坑5-1発見土器実測図	13
図11 周溝墓の拡張例（加美遺跡）	16

図版カット写真 大土坑5-1土器出土状況	図版7. 大土坑・周溝発見土器集合写真
図版1. 遺構面全景（西から）	図版8. 大土坑5-1発見土器
図版2. 遺構面全景（東から）	図版9. 周溝5-2発見土器
図版3. 周溝検出及び掘削状況（南から）	図版10. 周溝1-1・周溝5-2発見土器
図版4. 周溝検出及び掘削状況	図版11. 自然河川発見土器
図版5. 周溝堆積状況	図版12. 自然河川発見土器
図版6. 大土坑5-1土器検出状況	図版13. 自然河川発見土器

第1章 これまでの調査成果

1. 調査位置

池上曾根遺跡はこれまで広域にわたって大規模に発掘調査が続けられてきた。なかでも遺跡中枢部の東側を南北に分断する国道26号線の調査と、中枢部北側を東西に分断する都市計画道路（府道松ノ浜曾根線・府道池上下宮線）による緊急発掘調査は弥生文化を考える上で様々な成果を提示してくれた。調査成果を鑑み、遺跡の重要性と保存の必要性が推し量られる結果を生んだものの、東西・南北を貫く都市計画道路は今回調査の後、全面開通する運びとなった。

道路開発などの調査に並行して、史跡指定地内でも遺跡整備・活用のための発掘調査が継続して行われた。これらの整理報告・遺構の復元整備は現在も継続中である。

発掘調査から導かれた成果や弥生時代像は現在も活発な議論の対象となっている。例えば、年輪年代測定法の成果による弥生時代中期後半の時期が紀元前52年を一つの定点とする成果は弥生時代全体の長短を推し量る研究、後続する古墳時代のはじまりを邪馬台国の時代へとくりあげる議論へと展開している。また、府道池上下宮線にともなう発掘調査の成果はこれまで環濠集落の研究が深化していた池上曾根遺跡において、墓域や生産域など生活領域の推定について課題を投げかけた。以上は本府による96年度発掘調査概要と98年度埋蔵文化財報告に整理して記載されている。

さて、今回の調査位置は国道26号線に府道松ノ浜曾根線・府道池上下宮線が取りつく交差点東側にあたり、池上曾根遺跡中枢部の北東隅に位置する。よって、調査区の西は国道26号線に伴う昭和45年度調査のN区と接し、中央は府道池上下宮線に伴う平成9年度97-6区と、東は97-5・7区と接する。これらについては1999年刊行『池上曾根遺跡』に詳細が報告されている。今

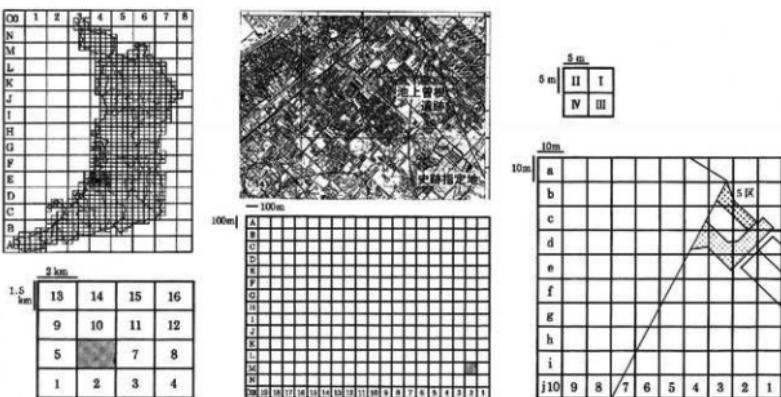


図1 池上曾根遺跡地区割表示図

回の調査は現道路の切り替え、用地買収の都合などから1～5区に分断した調査となった。このうち、1～4区の詳細な調査成果については前年度刊行『池上曾根遺跡』IIに大半を報告した。今回報告分は5区の遺構・遺物を中心に、関係する残り部分についてである。

2. 調査方法

99年調査の1～5区は東西15m、南北約22mのコ字形で、97-6区を東から開むように位置する。その位置表示は国土座標を使用、X・Yの座標値で示し、これまでに行われた調査と整合できるようにした。今回調査区のある和泉市池上町は大阪府発行1/2500地形図（都市計画図）のE4にあたる。これを基準として、12等分した500m四方の方形区画をさらに25等分する。調査区が位置する100m四方の方眼は大阪E4-6-M2と示すことができる（図1・2）。

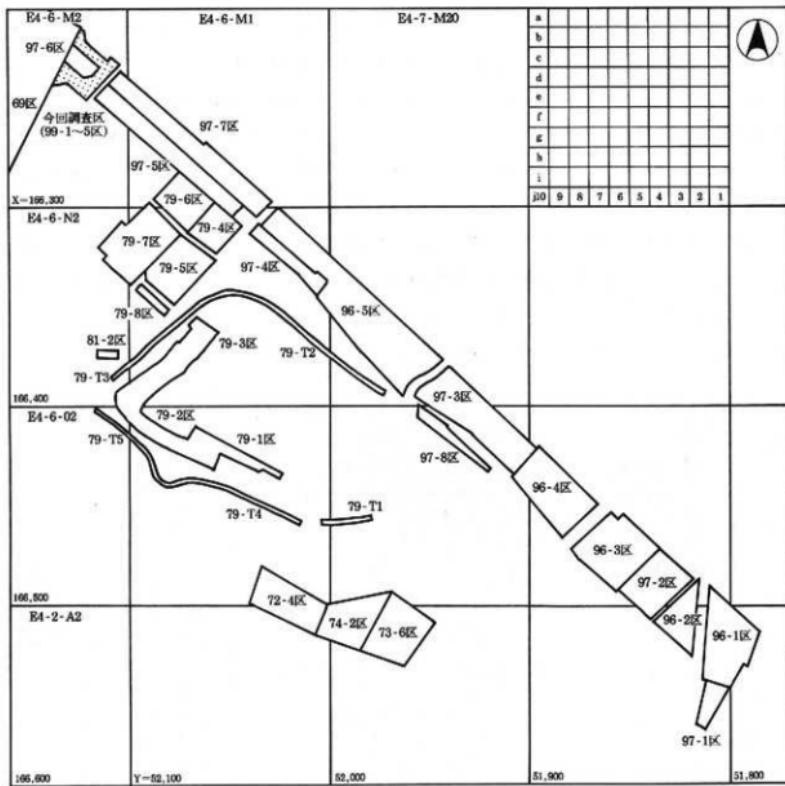


図2 周辺調査区位置図

前述したとおり、調査区は現道路の切り替え、用地買収の都合などから調査順に1～5区に分断しておこなった。今回報告の5区については道路開通の間際まで用地買収が成立せず、未買収部分を残したまま片側通行での道路開通が検討されていた。ところが、2000年3月になって、一転して用地買収が成立し、全面開通にむけて2週間足らずで緊急調査することとなつた。この様な経緯で、整理・報告は1～4区と分けて行なつた。5区は1～4区同様、良好な遺物包含層が残されておらず、遺構数も少なかつたため、遺物は層ごと、遺構ごとに取りあげた（図3）。

3. 層序

調査前、該当地は26号線に面する給油販売所の一部になつており、コンクリートよう壁の下、厚い盛り土に覆われていた。その盛り土を重機で除去すると広告看板などの基礎、道路埋設物などがあり、その下に水田耕土（第1層）がみられた。水田耕土を除去すると層厚約10cm前後の黄橙粘土層（第2層）が残されていた。この層が近年までの水田底土にあたる。この層を切り込んで営まれた面を第1遺構面、この層の下面を第2遺構面として調査した。

第2遺構面の基盤となる灰褐色土層（第4層）は古墳時代から中世までの遺物をふくむ包含層である。包含層を除去すると弥生時代の遺物包含層である灰褐色粗砂（第5・6層）・明黄褐色（第7層）・暗茶褐色などがある。弥生遺物包含層のうち砂質の堆積物は3～4区を覆う自然河川が起源と考える。自然河川は弥生時代前期～終末期の遺物が含まれていた（図3右）。

その下には黄褐色粘土の地山がある。ところによっては砂れきを大量に含む。また、地山直上は部分的に茶褐色に変色していた。弥生時代の遺構はすべて地山を切り込む形で検出された。

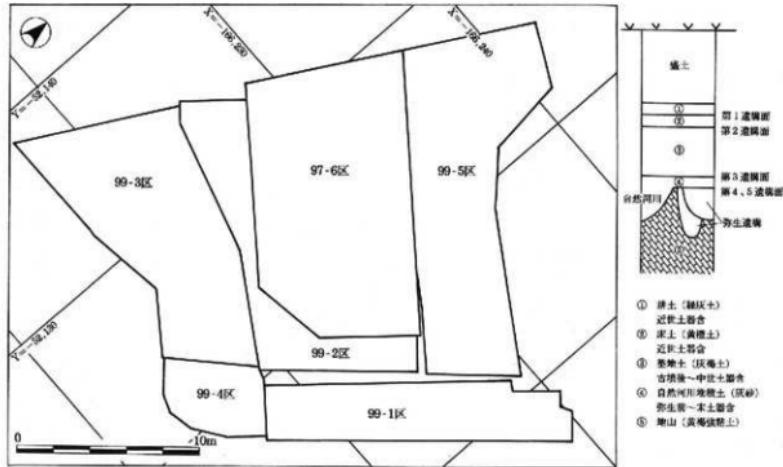


図3 地区割図及び標準土層図

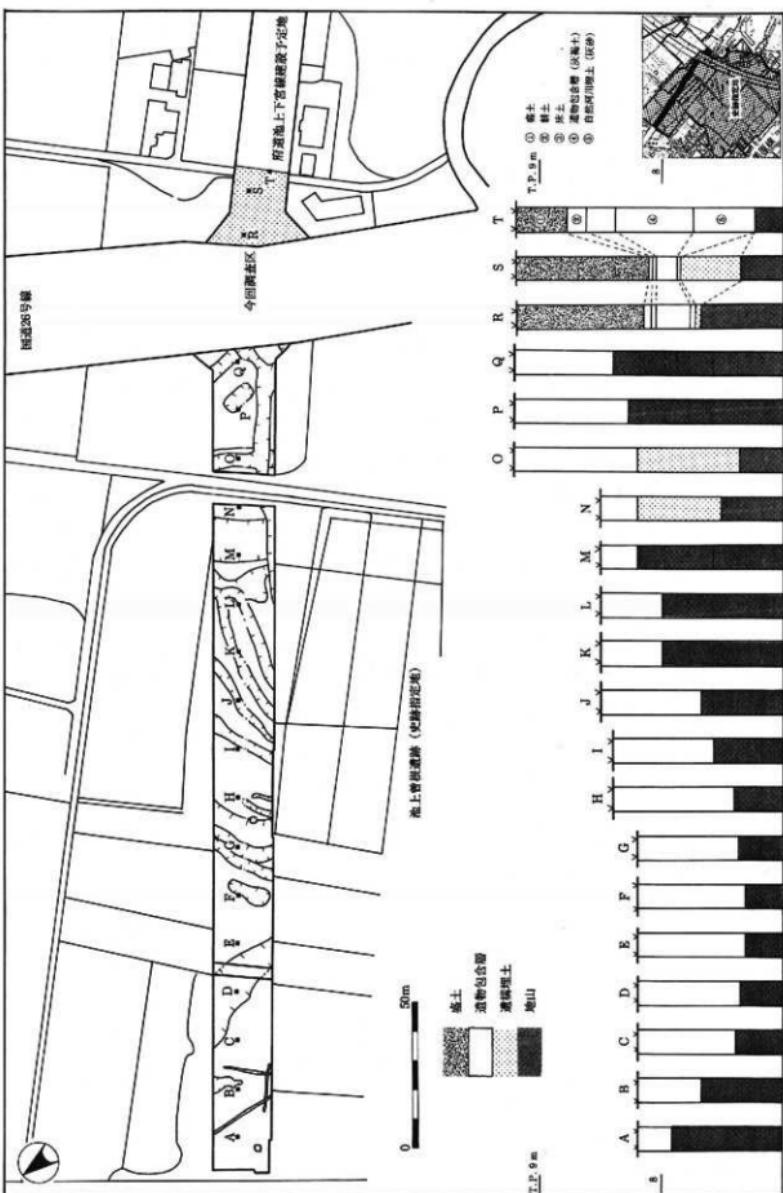


図4 周辺土層柱状図

第2章 発掘調査

1. 歴史時代

国道26号線調査によって発見された遺構は砂で覆われた上に鉄板を敷きつめ埋戻された。道路建設はこれらの養生措置の上から行われた。よって、路面は旧地表から極端に高くなり、今回調査区もところによっては旧地表の上に約2m近くの盛り土が施されていた。この盛り土を除去すると水田耕土が部分的に残されていた。ただし、攪乱によって遺存状況は悪い。

水田耕土を人力によって除去したところで、これまでの調査では床土に切り込まれた遺構面が確認されている。第1遺構面とした(図版1a・2a)。5区では遺構・遺物は確認出来なかつた。

第1遺構面の基盤になる水田床土(黄橙粘土層)を除去すると、砂利混じりの灰褐土層が現れた。この上面を精査するといくつかの耕作溝が確認できた。第2遺構面とする。両遺構面で確認した遺構は方位にそっておらず、現状で確認できる条里制区画にのったものだった。第2遺構面の基盤となる灰褐土層はいくつかに分層できるが明確な遺構面をとらえがたく、水田開発に伴う整地土と考える。この中には少量の中世土器が含まれていた(図版1b・2b)。

最終的に、整地は中世後期以降に完成する。灰褐土層はこれまでの池上下宮廩建設に伴う調査をはじめ広域にわたって確認できる鍵層にもなっている。

付近の調査で見られる大規模な整地でも、古墳時代から平安時代にかけての遺構は破壊されたようだ。これまでの調査で各時期の遺物が数多く発見されている。しかし、該当時期の顕著な遺構は見つかっていない。

灰褐土層を除去すると弥生時代終末の土器を含む自然河川堆積物が調査区を広範囲に覆っていた。99-1~4区で自然河川の流路跡を確認している。5区は自然河川からあふれた泥流が徐々に沈殿したような細かい砂礫に覆われていた。この堆積物によって、弥生時代の主要な遺構は整地による攪乱を免れたようだ(図5上)。

自然河川からの堆積物が面的に見られる原因として、付近の地山レベルが国道26号線付近がもっとも高くなり、調査区近辺で氾濫をくり返したからだと推測する(図4)。26号線の調査で発見されたNa溝・Nb溝はこれらを人為的に制御するために掘削された溝かもしれない(図5下)。また、次節に詳述する弥生時代中期の溝群も同様の排水機能を兼ねていたと示唆される。

第1・第2遺構面から発見された遺物はコンテナ1箱に過ぎない。古墳時代後期の須恵器、奈良時代の須恵器、中世の瓦器・瓦などがある。いずれも遺構に伴う遺物ではない。

その他、5区に及んだ自然河川に伴う土砂堆積物中から少量の弥生前期~中期の土器・石器片が確認された。全て、小片で摩滅が著しい。

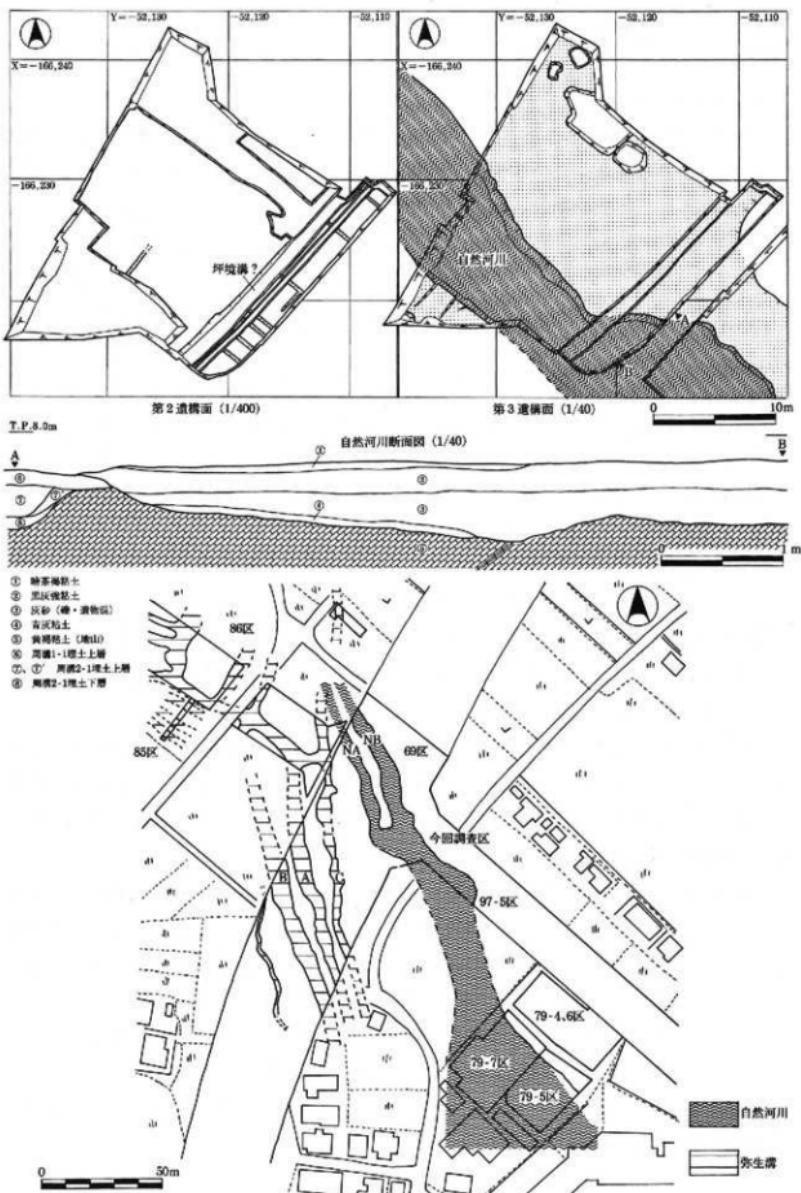


図5 第2・第3遺構面全体図及び自然河川堆積状況図

2. 弥生時代

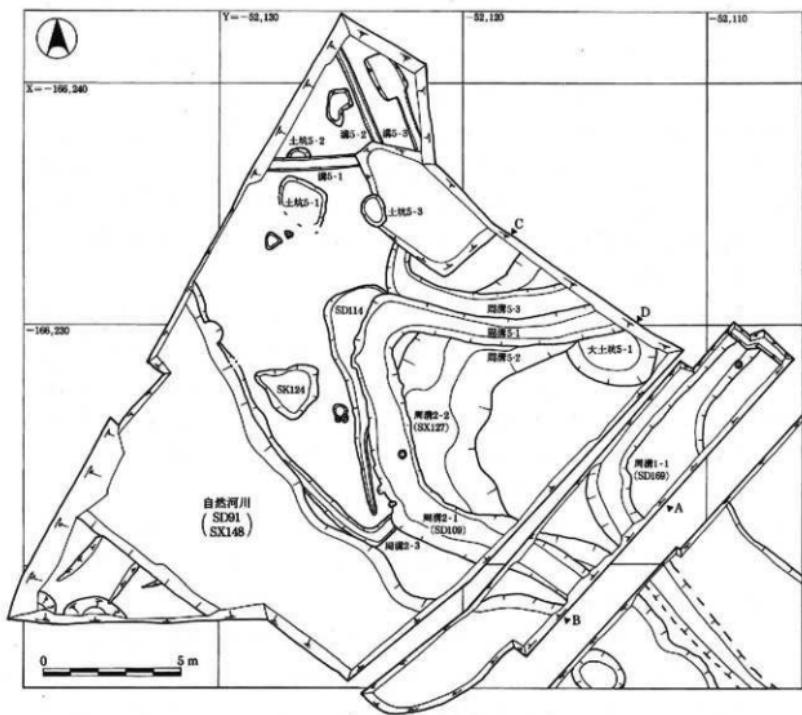
自然河川堆積物を除去すると1・2・5区で何条かの溝が切り合って検出された。これらの溝は97-6区でみつかった溝群に取りつくものもある。溝は直角に折れ曲がったり、完形の弥生土器が落ち込んでいたり、埋め土に流水・帶水の痕跡がなく、徐々に埋没、あるいは人為的に埋め立てられたものもある。以上から97年度調査で発見された墓域がこの地域まで及び、方形周溝墓群があったと予想した。しかし、周溝墓を決定づける明確な主体部はのこされていなかった。また、調査範囲ではどの周溝も全周が確認できなかった。以上について、『池上曾根遺跡』I・IIでは周溝墓の可能性を評価して報告している(図6・8)。

1区で発見された周溝1-1は幅約1.5m、深さ約0.8m、調査区中央でほぼ直角に折れ曲がる溝である。97-5区のS D169に取りつく。S D169からは弥生時代中期前～中葉の土器が発見されている(図版10a)。また、1区からも完形の壺一個体が発見されている(図版10b)。周溝の埋め土下層は地山粘土ブロックを大量に含む暗灰強粘土で、上層はゆっくりした堆積を示すしまった茶褐粘土だった。また、周溝内側に盛り土状の高まりを確認した。墓壙は発見できなかつたが弥生時代前期後半の土器が少量含まれていた。

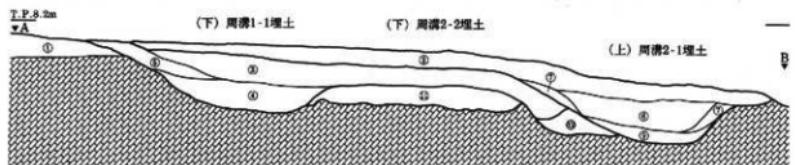
2区で発見された周溝2-1は幅約1.8m、深さ約0.6mを測り、北側は97-6区のS D109に取りつきほぼ直角に折れ曲がる。南は1区の周溝1-1に取りつく。この溝は97-6区の北側でさらに直角に折れ曲がり5区に至る。この部分を周溝5-1とした。周溝5-1の南端は周溝1-1に取りつくようだ。つまり、周溝1-1の南西にコ字形に接続する溝となる。ただし、この溝の下層は流水堆積による暗灰褐粗砂層が約10cm程度あり、周溝の機能には排水が兼ね備わるようだ。切り合いからみると今回発見された周溝群の中でもっとも新しい。2区からは少量の土器片と共に、石包丁未製品が発見された。5区周溝5-1部分からも少量の弥生土器片が発見されている。

周溝2-1・周溝5-1の下からほぼ同じ形態で周溝1-1の南西にコ字形に接続する周溝2-2・周溝5-2が検出された。周溝2-1・周溝5-1より幅は広いがその輪郭は不定形である。上層の堆積物は他の周溝に削られてわからないが下層に残された堆積物を見るかぎり人工的に埋め立てられたことを示唆する粘土ブロックが主な構成要素となっている。また、周溝2-2部分の内側斜面には弥生時代中期後半の長頸壺がびり落ちた形で発見された(図9・4・5 図版9d・e)。周溝5-2の内側からも同時期の広口短頸壺・把手付鉢・深鉢などがみつかった(図9.1~3・7~11 図版9a~c・f)。

周溝5-1の北に接する形でコ字形に接続する周溝5-3が確認された。周溝5-3は幅約1.5m、深さ0.2mを測る。埋め土は上層が暗茶褐強粘土、下層が灰白粗砂で流水を伴う堆積状況がうかがえる。遺物は確認できなかつた。この溝の北側は調査区外へと伸び、全形は確認できていない。5区の周溝は切り合いから周溝5-2がもっとも古く、5-3、周溝5-1の順に構築されたことがわかる。しかし、周溝5-1・周溝5-3の堆積土は部分的に互層になり、共有しな



第4、5遺構面(1/200)



- | | | | |
|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|
| ① 周溝1-1土層(高灰褐色土) | ② 周溝2-1堆土上層(高灰褐色土) | ③ 周溝2-2堆土上層(青灰褐色土) | ④ 周溝5-2堆土上層(青灰褐色土) |
| ⑤ 周溝1-1堆土下層(暗茶褐色土) | ⑥ 周溝2-1堆土下層(暗灰褐色) | ⑦ 周溝2-2堆土下層(黑褐色土) | ⑧ 周溝5-2堆土下層(暗茶褐色) |
| ⑨ 周溝1-1上層(高灰褐色土) | ⑩ 周溝2-1堆土下層(灰白色土) | ⑪ 周溝2-2堆土下層(黑褐色土) | ⑫ 大土坑5-1堆土上層(青褐色土) |
| ⑬ 周溝1-17層(高灰褐色土) | ⑭ 周溝2-1堆土上層(暗茶褐色土) | ⑮ 周溝2-2堆土下層(淡灰褐色) | ⑯ 大土坑5-1堆土上層(青褐色土) |
| ⑯ 周溝1-17層(高灰褐色土) | ⑰ 周溝2-1堆土上層(暗茶褐色土) | ⑱ 周溝2-2堆土下層(暗褐褐色) | ⑲ 大土坑5-1堆土下層(暗褐色) |

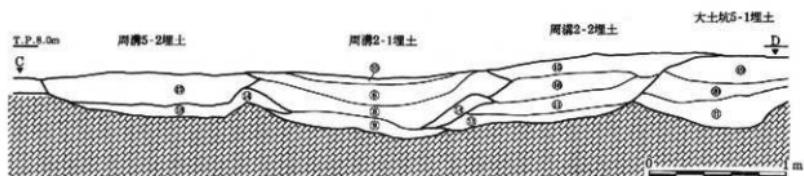
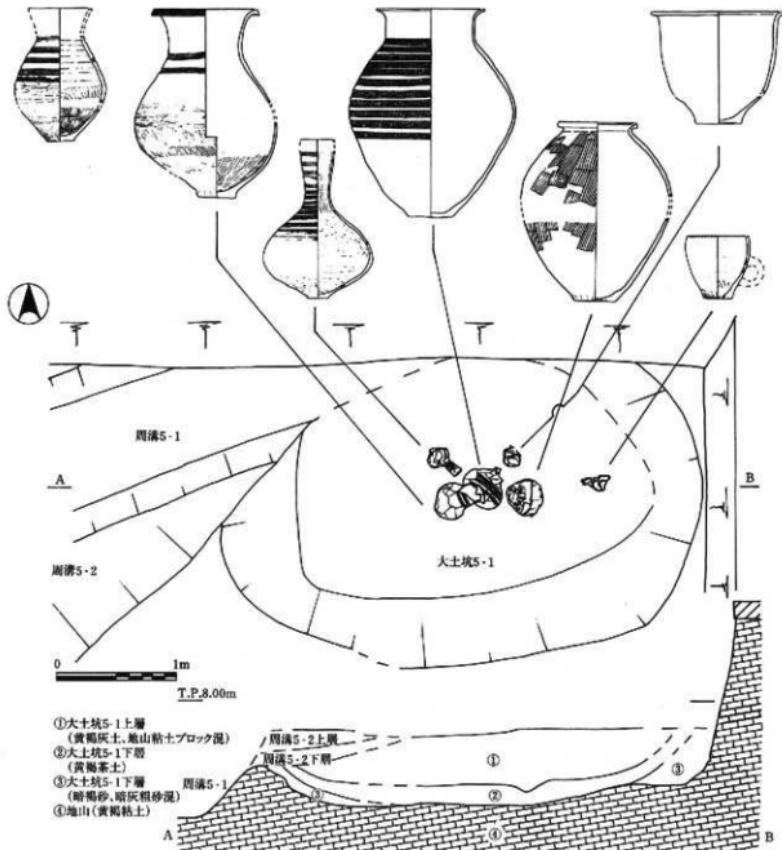


図6 第4・第5遺構面全体図及び遺構堆積状況図

がらほぼ同時期に埋没したようだ(図6下)。

5区の南東隅で大土坑5-1を確認している。この土坑は周溝の内もっとも時期がさかのばる周溝5-2に切られており、5区でもっとも古い遺構となる。長辺約4m、短辺約3mを測る。深さは現存で約1.2m、埋め土は上層が黄褐色灰土・黄褐色茶土で地山の粘土ブロックを大量に含む(図7 図版6)。下層は暗褐砂が薄く堆積しており、底にはほぼ完形の広口壺・長頸壺・壺・ジョッキ形鉢などの土器群が折り重なって発見された(図10 図版8)。堆積状況から土器群は一時期、地上に露出していたものが人為的に一気に埋め戻され、その後周溝群が掘削された様だ。周溝1-1に伴う供献土器を埋納した祭祀土坑ではないだろうか。



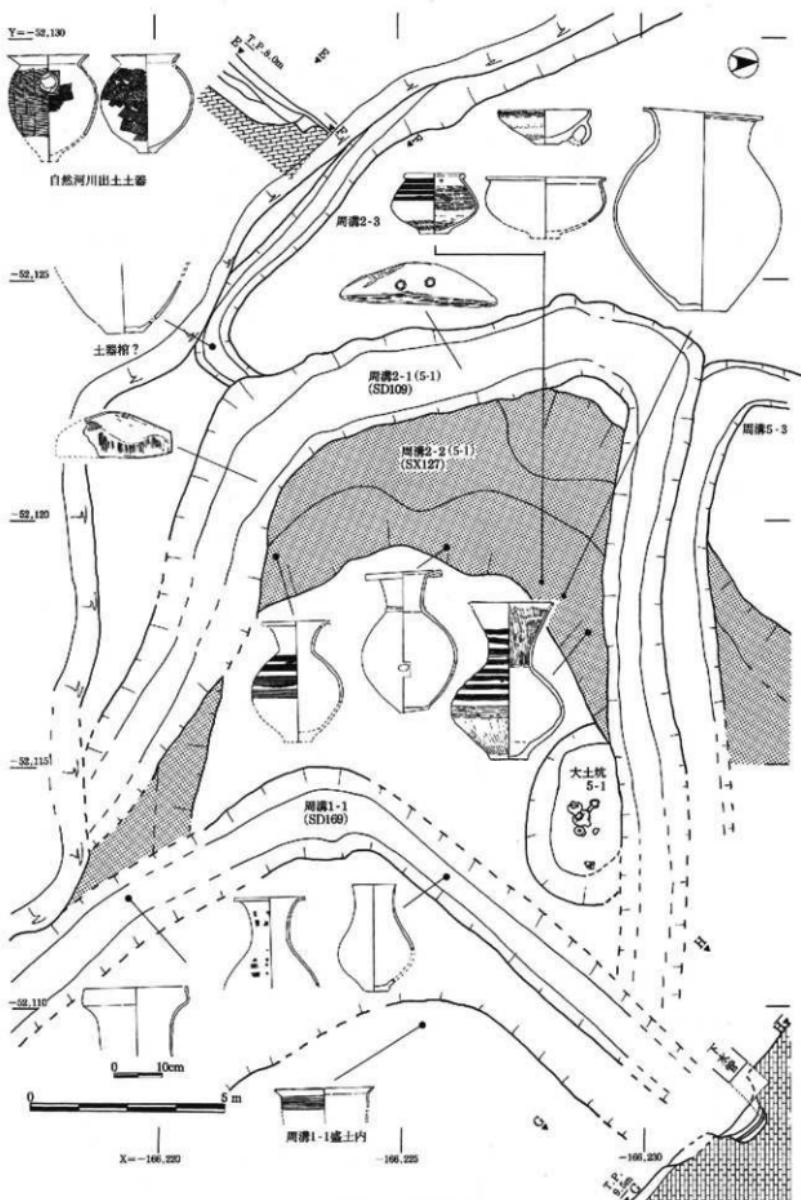


図8 周溝状遺構平面図 (1/100)

3. 出土遺物

周溝から発見された遺物には10個体程度の土器がある。これらは一連の遺構である周溝2-2・周溝5-2・S X127から見つかったものが大半を占める。周溝2-1・周溝5-1・SD109からは石包丁未製品と少量の土器片が発見されているに過ぎない。また、周溝1-1・SD169からは弥生時代中期前半の長頸壺・段状口縁壺などが発見されている。

大土坑5-1からは7個体の弥生時代中期前半の壺・甕・鉢などが発見された。以下それについて特徴を示す。

周溝2-2・周溝5-2・S X127から見つかった土器には把手付き鉢・浅鉢・長頸壺・短頸壺がある。

把手付き鉢は口径14.7cm、高さ5.7cmを測る。口縁を厚くやや平らに仕上げ、口縁外部に刻み目をもつ。底部は小さくすばまり不安定である（図9.1 図版9b）。

浅鉢は口縁を丸く折り返し、簾状紋を密に施したものと、口縁部をく字形に屈曲させ、口縁端部をややとがり気味に立ち上げるものがある（図9.2-3 図版9a-c）。前者は口径9.4cm、高さ9.9cmを、後者は口径19.4cm、高さ7.3cmを測る。前者には屈曲部に二つの穿孔があり、その胎土から生駒西麓産の土器と位置づけできる。

長頸壺は銅の張りがきつく櫛描直線紋を施すものと、口縁部を大きく外方向に開き端部を屈曲させ、胴部と頸部の境に突帯をめぐらせるものがある（図9.4-6 図版9de・10e）。前二者の口縁形態と口縁外部の施紋は摩滅によりよくわからない。後者は胴部に外方向からの粗い穿孔があり、摩滅により施紋はわからないものの突帯の特徴などから紀ノ川流域産と考える。口径16.3cm、高さ31.2cmを測る。

短頸壺は口縁部を丸くしあげ、ゆるやかに屈曲するもので大小に分けられる（図9.7-10 図版9f・10c）。頸部をほぼ直線的に立ち上げる大型のものは摩滅によって施紋が失われ、口径19.6cm、高さ33.0cmを測る。

その他、1区につづく部分の周溝（周溝1-3）から壺口縁部片・高坏脚部片・壺頸部片・壺底部片が発見されている。いずれも小片である（『報告書II』図12に記載）。

以上、底部・胴部の形状や底部外面を縱方向に粗くみがく技法・簾状紋のみによって施紋された中河内の土器を伴うことなどから周溝2-2・周溝5-2からみつかった一連の土器群は弥生時代中期中ごろ（Ⅲ様式～Ⅳ様式第1段階）と位置づける。

周溝2-1・周溝5-1・SD109からは石包丁・石包丁未製品と土器底部片が発見されている（『報告書II』図11・12に記載）。出土遺物から遺構の埋没時期を確定することは出来なかった。

周溝1-1・SD169からは長頸壺・段状口縁壺などが発見されている。長頸壺は表面が摩滅しており、施紋・口縁端部の形状は不明瞭である。口径約9cm、高さ23.8cmを測る（図版10b）。その他、SD169部分から櫛描直線紋を伴う長頸壺（口径15.2cm）・段状口縁壺（口径22.1cm）などが確認され、Ⅱ様式～Ⅲ様式と報告されている。

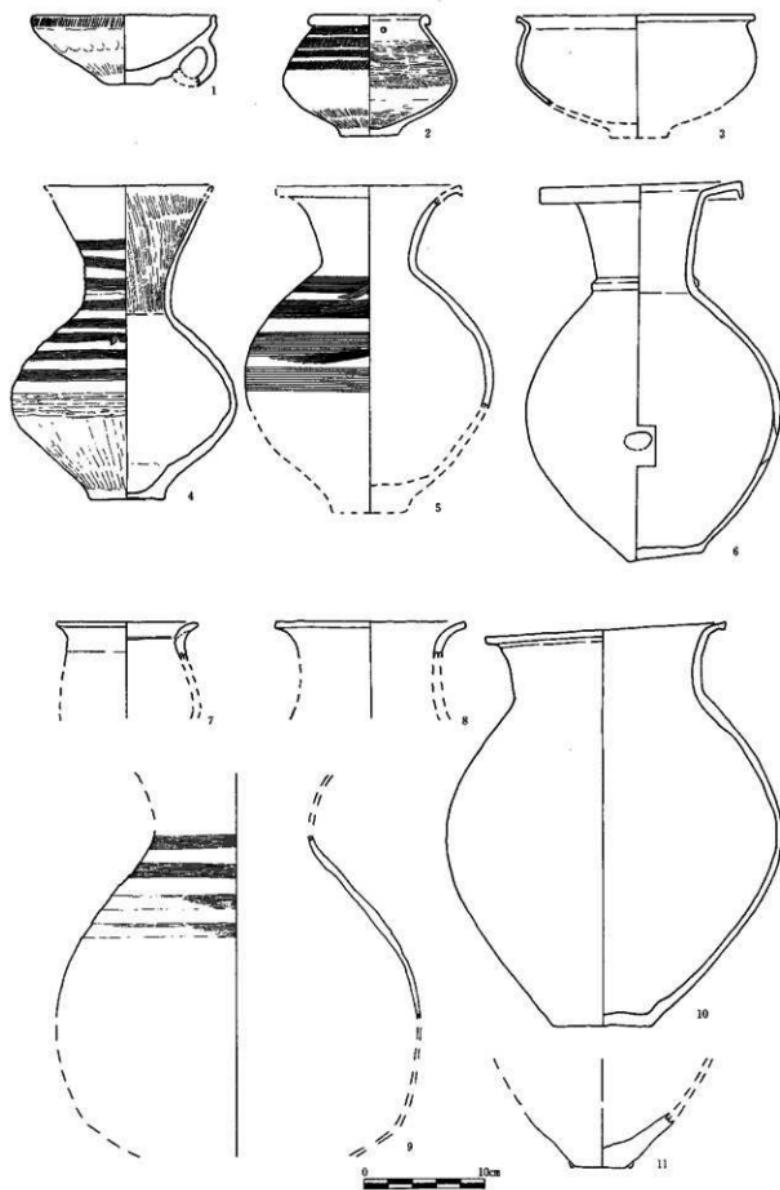


図9 周満2-2・周満5-2発見土器実測図 (1/4)

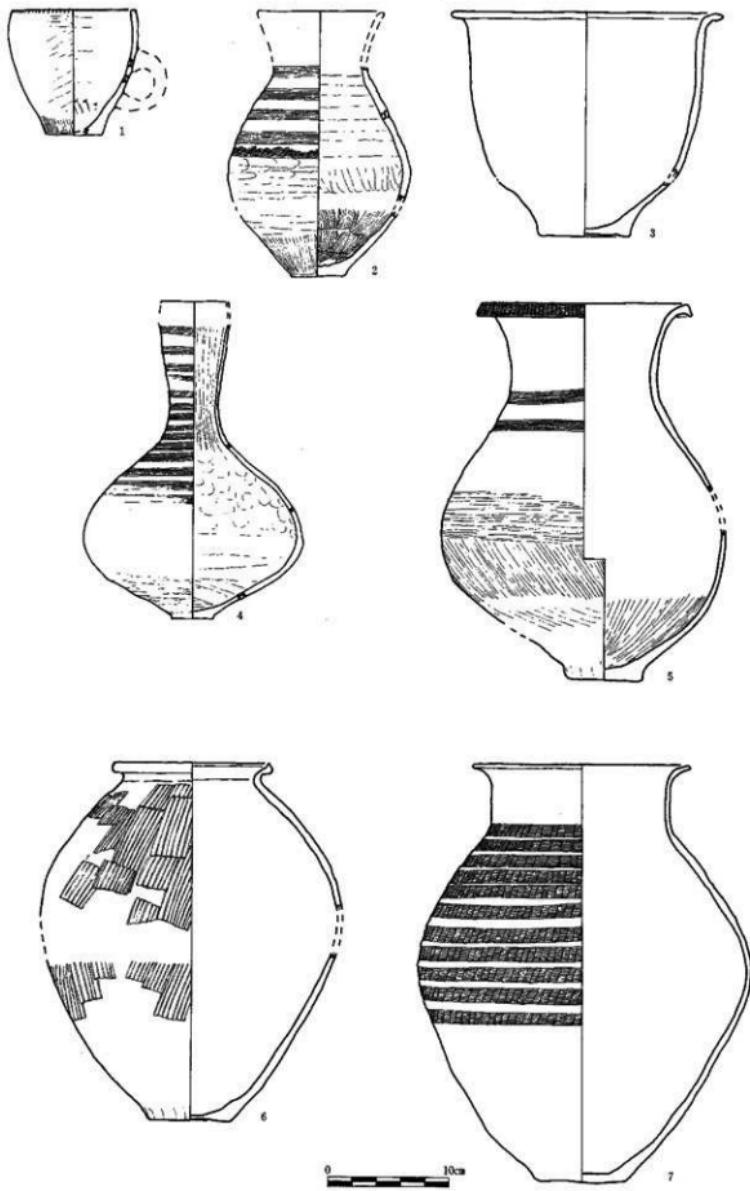


図 10 大土坑 5-1 発見土器実測図 (1/4)

大土坑5-1からは鉢・水差し形土器・長頸壺・短頸壺・甕が発見された。以上はほぼ完形で折り重なっており、人為的に埋められたと考える。鉢は把手の付く小型品で口縁端部を平らにつくり出し、口唇部に細かい刻み目を施す。把手は欠損しており確認出来なかった。口径約10cm、高さ10.4cmを測る（図9.1 図版8d）。

水差し形土器は把手と口縁部を欠損するため、広口壺の可能性もある。胴部上半に緻密な縱方向のハケ目を施したあと、櫛描直線紋をめぐらせ一番下のみ波状紋とする。胴部下半は粗くヘラで磨き、もっとも貼り出した部分をヘラ削りする。内面は指などの痕跡が明瞭で底部にヘラ跡が残る（図9.2）。

長頸壺は口径6cm以下で高さ25cm以上になる。口縁端部を欠損するもののくびれまで約10cmある。胴部はソロバン玉形にすばまり、底部径は4cmに満たない。頭部から胴部上半にかけて櫛描直線紋が粗く施される。胎土から生駒西麓産と考える（図9.4）。

短頸壺は外反した口縁端部を面にして簾状紋を施紋するものと、丸く仕上げるものとがある。前者は頭部にも櫛描直線紋を施し、底部を丁寧にヘラ磨きする。全体に摩滅が激しく、口径16.8cm、高さ22.8cmを測る。後者は胴部上半を密に簾状紋様で埋め、口径17.6cm、高さ21.5cmを測る（図9.5-7 図版8b-c）。

甕は口縁部のすばまつた大型品と口縁端部を外方向に折り曲げた小型品がある。大型品は口縁端部をつまみあげ、ヘラ削りによる調整痕が明瞭に残る。口径12.5cm、高さ約29cmを測る。小型品には明瞭な調整痕が見られない。口径22.2cm、高さ18.0cmを測る（図9.3-6 図版8a-e）。

以上、櫛描紋を汎用した壺、水差し形土器の出現、瓜生堂遺跡など把手付き鉢の類例や長頸壺の形態から一群の土器を弥生時代中期中ごろ（Ⅲ様式）に位置づける。

これら以外に1~4区の自然河川堆積物中から整理箱15箱の弥生時代遺物が発見されている。このうち石器、弥生時代終末期の土器、男根状土製品について『報告書Ⅱ』において詳述、自然河川の堆積の時期などを整理した。今回はその他の土器について概観を述べる（図版11~13）。

弥生時代前期土器には口縁部に刻み目を入れ、頭部に多重の沈線を施すものがある。また、突帯を貼り付けたものもある。

弥生時代中期土器には壺、甕、鉢、高坏などがある。壺・鉢の口縁部形態は直口のもの、口縁部を直角に折り曲げ、面をつくるものなどがある。甕の口縁部形態は口縁部直下でく字形に折り曲げるもの、ほぼ口縁部内面を水平に曲げ端部をわずかに垂下させるもの、口縁端部を丸くおり返すものなどがある。高坏は口縁部が直口のものと発達した垂下口縁を貼り付けるものがある。また、脚部の形状には円板充填で坏部と接合面をもち、ラッパ状に開き穿孔をもつもの、円筒形の長い脚に小さな脚端部が傘形に開くものなどがある。施紋には櫛描きの直線紋・簾状紋・波状紋・斜格子紋・刺突紋などがある。また、円形浮紋・貼り付け突帯・竹管紋・列点紋・凹線紋などの加飾もある。その他、口径4~5cm、高さ10cm前後のイイダコ壺も多数確認出来ている。

第3章 まとめ

今回の調査では弥生時代中期の土器を含む複数の溝が切り合って検出された。いずれの溝も全容が明確にできなかったものの、ほぼ直角に折れ曲がり、掘り底が水平でゆるやかな堆積状況を示すことから周溝墓の可能性を推定、発見された土器よりその時期を弥生時代中期中ごろ（Ⅲ様式）と位置づけた。

調査区南側は自然河川によって弥生時代中期の遺構面は残されていなかった。ただし、これまでの調査によってこの自然河川は南東方向から北西に向かって蛇行しながら流れる河川で、ときおりの氾濫によって付近に堆積物をあふれさせる状況も把握できた。自然河川の流れと、付近の調査による弥生時代の地表面を検討すると、微地形はむしろ東が低湿で西に高いことが確認できる。この高まりは国道26号線付近が頂点で、それより西側は急激に低くなることも知られる。自然河川は国道26号線の調査区では人工的に掘り直して、流路を規制していることが確認されている。この状況を評価すれば、西側の高まりによって本調査区付近で氾濫した水の一部は逃げ場を失い、人為的に排水する必要が生じたのだろう。

今回検出された周溝はこれらの水を受け入れる開渠の役割を兼ねたと考える。周溝2-1には明らかな流水堆積の痕跡があり、周溝2-2には掘り直しや人工的に埋戻された痕跡があった。ただし、埋め土の大半は有機物を含む土壤化した粘土層による。掘削後、肩部を崩落させながら徐々に埋もれていく様子がわかる。開渠の機能は一過性である。

さて、今回発見された周溝群からは明確な主体部が発見されず、周溝墓と断定することは出来なかつた。しかし、周溝2-3のコーナー部に据えられていた土器は棺に転用されたものだった可能性もある。周溝1-1の内側に残された盛り土状の高まりには弥生時代前期後半以外の土器が見られず、これらの遺構が構築された時期はほぼ弥生時代中期段階に収まるものと理解できる。また、周溝群に切られる形で発見された大土坑5-1にはⅢ様式の土器が一括埋納されており、これを周溝1-1の供獻土器群と考えれば周溝墓群の造営開始時期もこのころととらえることができる。

各周溝はコ字形で、西の一辺を別の周溝と共有し、鎖状につながって東に発達して行く様子が復元できる。切り合いから、周溝1-1をもとにその東に、周溝2-1（5-1）・周溝2-2（5-2）が、周溝2-2（5-2）をもとに周溝2-3・周溝5-3が掘削されたと考える。周溝5-3は西側の状況が不明だが南側は明らかに周溝2-1の形から規定される。ただし、埋め土の堆積状況は両周溝が互層に折り重なる。開削時期は周溝5-2が古いようだが、両周溝はほぼ同時期に機能していたようだ。別の周溝が北側や西側にさらに存在すると予想できる。

これまでに周溝墓の一辺を拡張して追葬した例に大阪市加美遺跡（KM95-14次）がある。この墓群の調査では弥生時代中期中ごろの周溝墓が2基確認され、1号墓は方形周溝の東側一辺を後に盛り土によって約2mの幅で埋め立て拡張している。2号墓も同様に方形周溝の北側一辺を

盛り土によって埋め戻し約2m程拡張、その外側に新たな周溝を築いている（図11）。これらの墓は弥生時代中期後葉には周辺が水田化されており、墳丘の拡張は比較的短期間に行われていたことがわかる。また、二つの墓は造墓直後に墳丘のコーナー部分に壺を据え置くなど、今回調査成果と共通する事象として注目できる。

また、周溝墓の上面を盛り上げて空間を拡張した周溝墓の調査例に東大阪市巨摩遺跡（巨摩・若江北第4次3Ⅲトレンチ）が知られる。この調査で発見された3号墓からは6つの木棺と2つの土器棺が発見され、そのうち木棺は盛り土を重ねたあとに追葬され、さらに盛り土、墓標の石などが確認されている。造墓は弥生時代後期から庄内期まで継続して行われた様だ。

周溝を共有した弥生時代中期の墓群を復元するならば、墓群は世代をこえて意図的に関係をもつことが確かめられ、被葬者の血縁関係にかかわると想定できる。これまで、池上曾根遺跡の環濠集落周辺からは弥生時代中期の墓域が分散して数基づつ発見されている。主体部は周溝に埋め捨てられた土器棺もあった。墓域の分散と墓内での埋葬格差を意味づけるとすれば、地縁関係だけの共同墓地があちらこちらにつくられたと考えるよりも、墓群は血縁関係を単位に分散し、構成員にも序列があったことを示している。しかし、個々の周溝墓は等質的で世代による優劣はない。この現象も当時の社会を反映するものだろう。そして、周溝墓群は弥生時代中期の内に消滅したらしい。それは集落中枢部の盛衰に対応している。

以上については『報告書II』のまとめを加筆修正したものである。

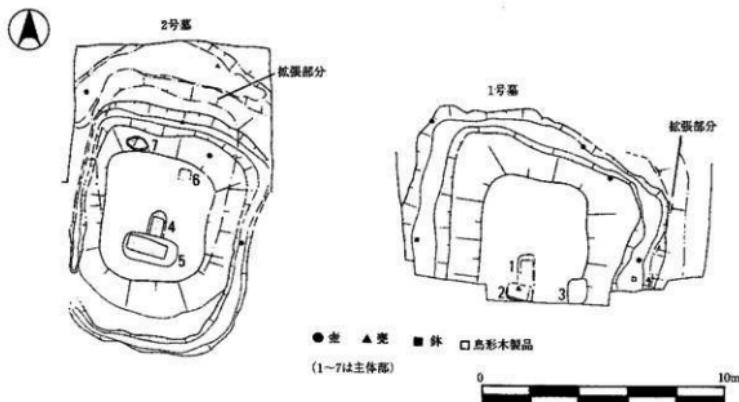


図11 周溝墓の拡張例（加美遺跡）

大庭重信「加美遺跡の発掘調査」「大阪府下埋蔵文化財担当者研究会（35回）資料」1997より

実測遺物登録対照表

実測番号	器種・時期	掲図番号	図版番号	出土層位・遺構	遺存度合
1	把手付鉢 弥生時代中期	図9-1	図版9b	5区周溝5-2	把手欠損
2	浅鉢 弥生時代中期	図9-2	図版9c	5区周溝5-2	完形復元
3	浅鉢 弥生時代中期	図9-3	図版9a	5区周溝5-2	完形復元
4	長頸壺 弥生時代中期	図9-4	図版9e	2区周溝2-2	完形復元
5	長頸壺 弥生時代中期	図9-5	図版9d	2区周溝2-2	3/4復元
262	長頸壺 弥生時代中期	図9-6	図版10d	6区S X127	ほぼ完形
6	壺口縁部 弥生時代	図9-7		5区周溝5-2	小片
7	壺口縁部 弥生時代	図9-8		5区周溝5-2	小片
8	長頸壺 弥生時代中期	図9-9	図版10c	5区周溝5-2	1/2復元
9	短頸壺 弥生時代中期	図9-10	図版9f	5区周溝5-2	完形復元
10	壺底部 弥生時代	図9-11		5区周溝5-2	小片
11	ジョッキ形土器 弥生時代	図10-1	図版8d	5区大土坑5-1	完形復元
12	水差し 弥生時代中期	図10-2		5区大土坑5-1	小片多数
13	甕 弥生時代中期	図10-3	図版8e	5区大土坑5-1	完形復元
14	長頸壺 弥生時代中期	図10-4		5区大土坑5-1	小片多数
15	長頸壺 弥生時代中期	図10-5	図版8c	5区大土坑5-1	完形復元
16	甕 弥生時代中期	図10-6	図版8a	5区大土坑5-1	完形復元
17	長頸壺 弥生時代中期	図10-7	図版8b	5区大土坑5-1	完形復元

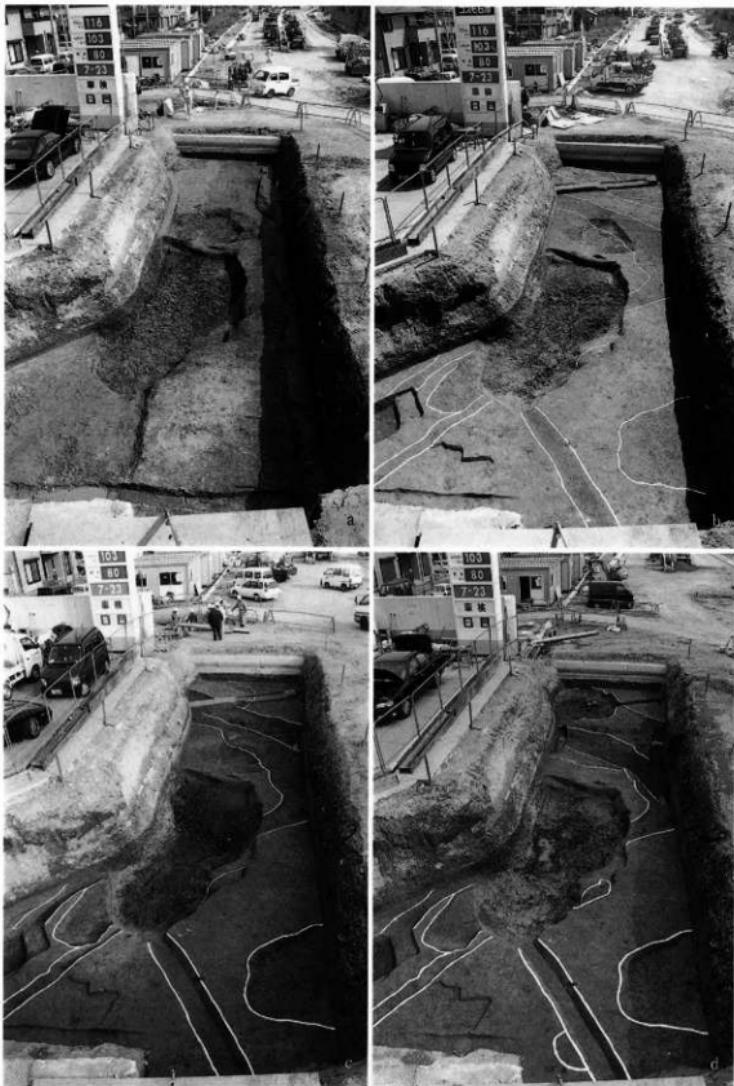
報告書抄録

ふりがな	いけがみそねいせきⅢ							
書名	池上曾根遺跡Ⅲ							
副書名	拠点集落東方の墓域の調査							
卷次数	Ⅲ							
シリーズ名	大阪府埋蔵文化財調査報告2000-3							
シリーズ番号								
編集著者名	西川寿勝							
編集機関	大阪府教育委員会							
所在地	〒540-8571 大阪府大阪市中央区大手前2丁目 ☎06-6941-0351(代表)							
発行年月日	2001年3月							
ふりがな 所取遺跡名	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因	
いけがみそねいせき 池上曾根遺跡	おおさかふ 和泉市 いけがみそねいせき 池上町	市町村 27219	遺跡番号 28	34. 29. 55	135. 26. 30	99年11月 から 00年3月末 まで	合計 330m ²	府道池 上下宮 線建設 に伴う 調査
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
いけがみそねいせき 池上曾根遺跡	環濠集落 方形周溝墓	弥生時代中期	方形周溝墓 祭祀土坑 自然河川	弥生土器・ 石器	弥生時代中期 の拠点集落			

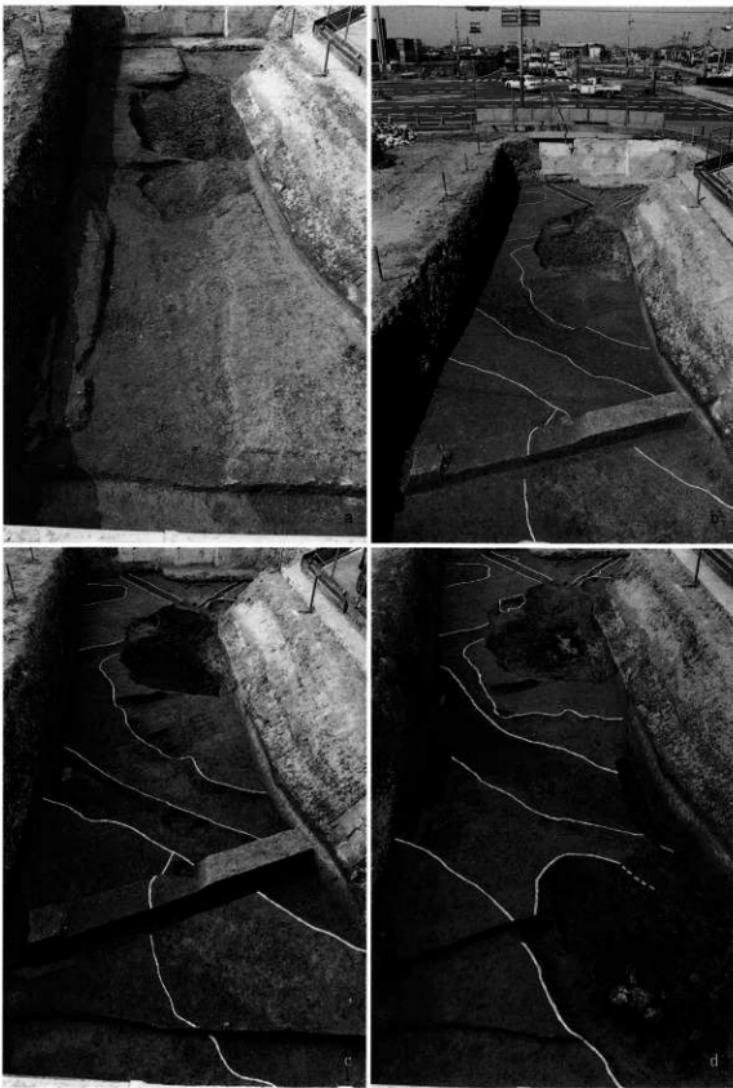
図 版



土坑 5-1 土器出土状況



a. 第1造構面 b. 第2造構面検出時 c. 周溝上層掘削時 d. 周溝完掘状況（西から）



a. 第1造構面 b. 第2造構面検出時 c. 周溝上層掘削時 d. 周溝完掘状況（東から）

a. 周溝検出状況（西から）



b. 同上



c. 周溝上層発掘状況（西から）



d. 周溝完掘状況（西から）



a. 周溝完掘状況（西から）



b. 同上



c. 同上（東から）



d. 同上（東から）



a. 周溝 5-1 堆積状況（西から）



b. 同上（北から）



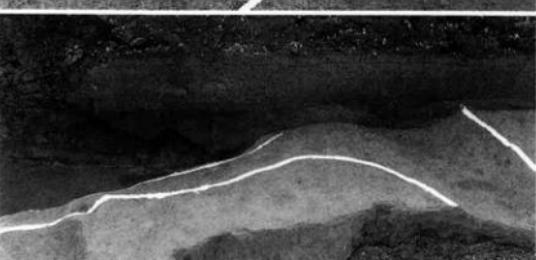
c. 同上（東から）



d. 周溝 5-2 堆積状況（北から）



e. 周溝 5-3 堆積状況（北から）



a. 大土坑 5-1 埋土状況



b. 同上 土器出土状況



c. 同上 土器検出状況



d. 完掘 (南から)





a



b

a. 大土坑5-1発見土器 b. 周溝1-1、周溝5-2、大土坑5-1発見土器



大土坑 5-1 発見土器



a



b



c



d



e



f

周溝5-2発見土器



a



c

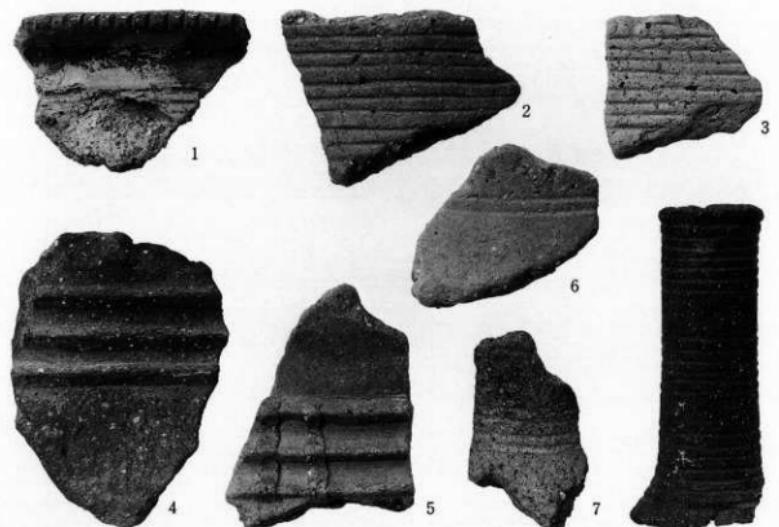


b

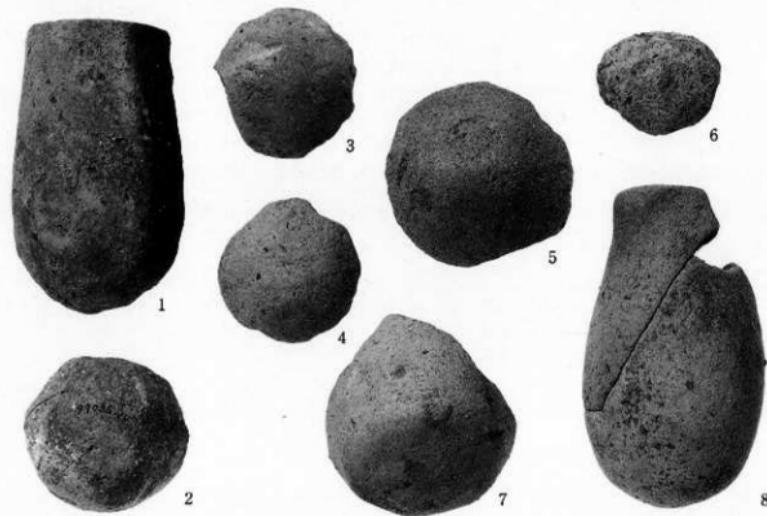


d

a, b. 周溝 1-1 発見土器 c, d. 周溝 5-2 発見土器 (a, d は 97 年度調査で発見)

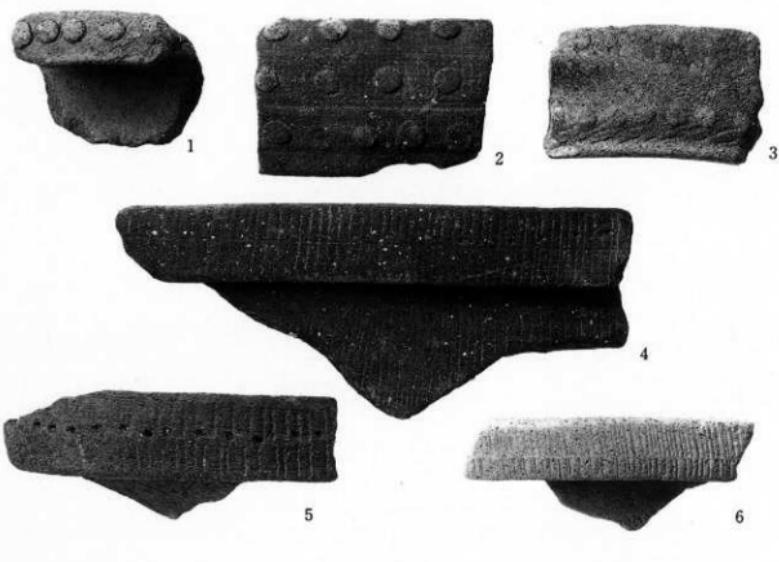


a

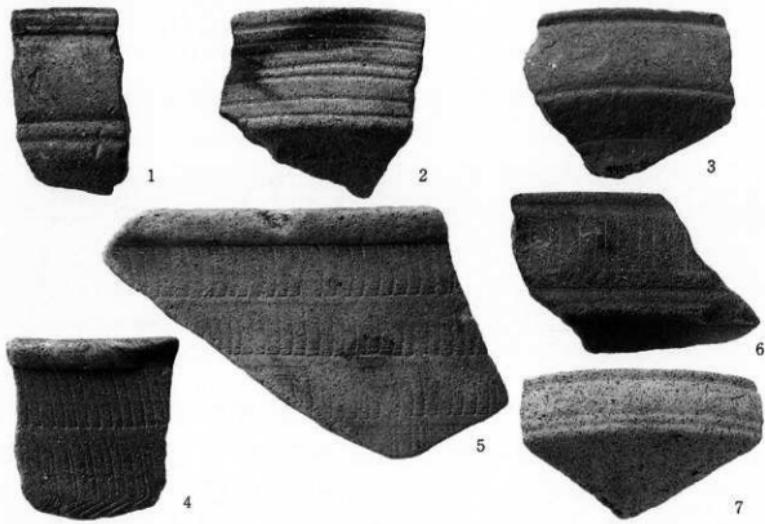


b

自然河川出土土器 a. 弥生前期土器 他 b. イイダコ壺



a

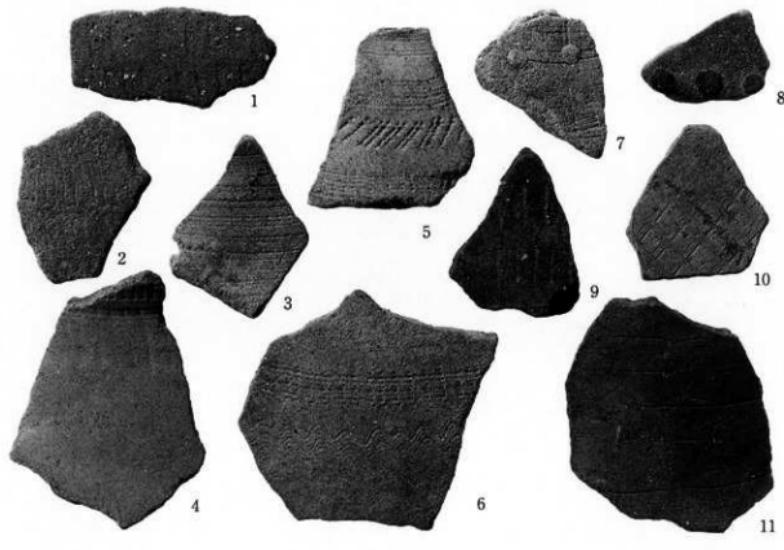


b

自然河川出土土器 a. 広口壺口縁 他 b. 段状口縁壺口縁 他



a



b

自然河川出土土器 a, b. 壺、鉢等の加飾 他

大阪府埋蔵文化財調査報告2000-3

池上曾根遺跡Ⅲ

発行 大阪府教育委員会

☎581-8571

大阪府中央区大手前2丁目

☎06-6941-0351

発行日 2001年3月31日

印刷所 株式会社 中島弘文堂印刷所

